

新生オープンから大盛況！《ボウリング・クオリア》 1レーン77ゲーム、来客一人当たり3.5ゲーム以上を記録

2006年2月、市町村合併で岩手県に奥州市が誕生。盛岡市に次ぐ県下第二の都市となった。同年3月、奥州市水沢区の水沢ジャンボボウル(株式会社マツヤ)は、全面建替えリニューアルのため一旦休業。そして10ヵ月後の2007年1月13日、《ボウリング・クオリア》として生まれ変わった。新ボウリング場のオート・スコアリング・システムには、ジェトロニクスの“[with AL](#)(ウィズ・エーエル)”が採用されている。

**BOWLING
QUALIA**
ボウリング・クオリア

吹き抜けの大空間、明るい子どもの歓声

《ボウリング・クオリア》は、同日グランドオープンを迎えた四階建の複合型娯楽施設「アミューズメント BOX LIVE」の三、四階フロアを占めている。交通量の多い幹線道路、国道4号沿いにそびえるこの大型アミューズメント施設には、850台を収容する巨大な立体駐車場が完備。ボウリング場のほか、飲食店(レストラン、カフェ)インターネットカフェ(漫画喫茶、カラオケ)、レンタルスタジオ、そして遊技場(パチンコ&スロット)が入っており、バラエティに富んだ娯楽を一箇所で楽しむことができる。

現地を訪れたのは、グランドオープン4日後の1月17日(水)午後1時。立体駐車場と直結した渡り廊下を通過して三階の《ボウリング・クオリア》の入口を抜けると、四階部分まで吹き抜けになった開放感のある広い空間を、柔らかい光が明るく満たしている。午後早い時間にもかかわらず、ボウリングを楽しむ若い家族連れの姿が多いのは、冬休み期間中のためだろう。ボールがピンを倒す音に交じって、子ども達の歓声が響く。重いボールを持ってなくても転がして投球できるすべり台やバンジーレーンのおかげで、小さな子どもでもボウリングを楽しめるようになっている。



明るい場内。高い天井から吊るされた大きなオーバーヘッド・モニタが目を引く



バンジーレーンと、転がして投球できるすべり台を使ってゲームを楽しむ親子



ボウラーズエリアには、視界や動線を妨げる固定モニタやケーブルもなく、スッキリ

場内でひときわ目を引くのは、高い天井から吊るされた大きなオーバーヘッド・モニタ。鮮やかではっきりしたDLP プロジェクタの画面はフラットで縁がなく、2機ワンセットで並んでいる。<アメリカン>でゲームするときには1画面として使えるという。このほかにも、マスキングの演出照明やプロジェクタ映像、音響設備による演出など、建て替えリニューアルだからこそ導入することができた新しい技術が装備されている。

機械や設備ではなく、“おもてなし”の心がお客様を呼ぶ

しかし、きれいになった設備や目新しい機器は、お客様を“おもてなし”するためのツールに過ぎない、と支配人の大槻俊視氏は断言する。

「ここは、ゲスト(=お客様)とキャスト(=スタッフ)が、感動を共有する空間。設備には頼らない。どんなにすばらしい設備でも時間が経てば飽きられるもの。スタッフの“おもてなし”の心こそがお客様を呼ぶのです」

この信念は次のようなメッセージで、(クオリア)の広告やホームページなどでも伝えられている。

エンターテイメント性溢れる驚きの施設で、お客様をお迎えいたします。

ゲストとはおもてなしを受ける人。キャストは共演者。

「ゲストとキャストが感動を共有したい」

そんな思いのこもったボウリング クオリアへ、ぜひお越しください。

オープン早々から大盛況の秘訣

(クオリア)は初日から大盛況で、特に開店2日目の日曜日は、824名ものお客様が延べ2306ゲームを楽しんだという。賑わいはランドオープンの週末を終えて平日になっても衰えず、来客数こそ多少の落ち着きを見せたが、レーン回転率は50以上、一人当たりの平均ゲーム数は3.0以上をキープ。この数値は、業界平均を大きく上回るものだ。

出足の好調さの理由は、ランドオープンに向けて実施した大掛かりなイベントにある。一般営業開始前、1月4日から7日にかけての4日間、総勢3000名ものお客様を先行無料招待し、新店舗のお披露目を兼ねて、ゲームやフリードリンクを楽しんでいただいたのだ。これは、2006年11月に応募を受け付け、12月に申し込みのあった全員のプレー希望日時をきめ細かく調整するという入念な準備により実現したもの。応募受付を告知することによる宣伝効果、日程調整の個別対応による顧客満足度の向上、招待者の感動体験と口コミおよびリピート効果と、三段階にわたるプロモーション効果が功を奏した。

しかし、この盛況ぶりは、こうしたプロモーションの成果だけではない。建替え休業以前から、平均ゲーム数は高水準を保っており、ボウリング場の収益は緩やかながら右肩上がりだった。ボウリングのゲーム性を高めるさまざまな遊び方の提案、ゆっくり楽しめる料金プラン、スタッフとの親しみ溢れるふれあいなど、お客様の滞在時間がごく自然に長くなるような施策を次々と試み、受け入れられていた。こうして着実に増やしてきた固定客が、「一時休業から10ヶ月、新装開店を心待ちにしてくれたおかげ」(大槻氏)でもあった。

ジェトロニクスと築いてきた長い信頼関係

(クオリア)には、ジェトロニクスのオート・スコアリング・システム [with AL](#) が採用されている。大槻氏とジェトロニクス(オリベッティ)の関係は、1986年12月、同社製のコンピュータボウリングシステム[AL3000]を旧・水沢ジャンボボウルに初導入して以来、実に20年に及ぶ。当時、システムを導入するにあたって、製品比較検討の段階から関わった大槻氏が、製品選考についての秘話を明かしてくれた。意外などんでん返りで決まったのだという。

[AL3000]は、コンピュータボウリングのメーカーとしては後発だったオリベッティ(当時)が、市場に送り出した初めての製品だった。数社の競合製品を比較検討した結果、[AL3000]の性能/機能は最も高い評価を受けたが、価格が図抜けて高額であったため、大槻氏らの検討チームでは、性能と価格のコストパフォーマンスに勝る他社製品を推すことに決定し、小林隆夫 先代社長(創業者、故人)に上申した。ところがその翌日、「本当に良いと思ったものを買いなさい。良いモノは高くても良いものだ」という社長の一言で、[AL3000]の導入が決まった。それから 20 年、小林正典社長に代替わりした今も、「お客様に最高の“おもてなし”を提供するためには、ツールも最高のものを」という考えは、(クオリア)に受け継がれている。

今回のリニューアルにあたって、ジェトロニクスはwith ALのプロダクト販売だけでなく、ボウリング場内全体のトータル・エンジニアリングも任された。営業戦略的なコンサルティングと場内レイアウトを含めた全体の内装デザインをもとに、従来のボウリング場にはない新しい発想で、「お客様と感動を共有」するためのさまざまな“しかけ”を提案し、最新機器を駆使した演出方法を実現した。ご提供したソリューションの範囲は以下の通り。

【内装レイアウト・デザイン】

- 3 - 4階部分全体 (天井造作・照明デザイン含む)
- 4階パーティールーム・観覧デッキ
- ドリンク・コーナー
- フロント(受付)
- コンコース(ボールラック含む)
- 天然木床
- 内照式レーン 表示(データ伝送装置内蔵)

【ボウリング機器】

- with AL システム
- バンジーレーン
- ボウラーズエリアとシーティング
- オーバーヘッド・モニタ

【演出設備】

- 音響機器
- 映像機器
- 演出照明
- With AL 連動ターキーチャンネル演出



(クオリア)に併設されたドリンク・コーナー。アメリカン・ダイナーのような雰囲気。飲み物のほか、軽食も楽しめる



子供用ボールのラック前に設置された通称“池ポチャ”。人の動きに合わせて水紋のように映像が動く



日に数回、場内が暗くなり、奥のマスクング部分にプロジェクタ映像や演出照明が投影される。音響機器による効果音も

ジェトロニクスがすべてのデザインと設備・機器を一括して手掛けることで、統一感のあるボウリング場内に、最新機器が違和感なく融合。広々とした落ち着きあるボウラーズエリアは、with ALの最大の特長である「モバイル」「ワイヤレス」の機能が遺憾なく発揮され、スッキリした空間となっている。



アミューズメント BOX LIVE (株式会社マツヤ)

所在地 〒023-0003 岩手県奥州市水沢区佐倉河字道下 26-1
施設案内 ボウリング場 (クオリア) (30 レーン)、お食事処 (まつや)、無料公開会場 (イベントスペース・リンク)、防音個室 (サウンドスタジオ・リンク)、オープンカフェ/ネットカフェ (アンカー)、パチンコ & スロット (ラポール)
お問い合わせ URL: www.live-matsuya.co.jp

ジェットロニクス関係者からのメッセージ

ジェットロニクス・ソリューション東北株式会社 社長 宇野 孝

無事にオープンを迎えられ、誠におめでとうございます。われわれジェットロニクス・ソリューションは、トータル・エンジニアリングのコンセプトであった「ホスピタリティ溢れる感動空間の創造」の実現に試行錯誤の連続でしたが、(株)マツヤ様の小林正典社長はじめ、大槻支配人やスタッフの皆様の情熱に導かれて完遂することができました。心より感謝申し上げます。新システムが最大限に活用され、お客様に驚きと感動を贈りつづけられることを願いつつ、新生(ボウリング・クオリア)の今後益々のご発展を祈念いたします。

ジェットロニクス・ソリューション東北株式会社 藤原勝利

今回導入したものは、with AL以外は実績のない最新の設備・機器ばかり。お客様に満足して頂ける結果を出すためには技術的な問題が山積していましたが、とてもやりがいのある仕事でした。(株)マツヤ様と私のお付き合いは、ちょうど20年前、[AL3000]導入のときから。当時はボウリング業界に参入したばかりでボウリングのことを知らなかった私に、いろいろと教えてくださいました。これからお客様の信頼と期待に応えていけるよう努めて参ります。

ジェットロニクス株式会社 BS 事業部 ビジネス開発室 久保義昭

今回の案件は、ジェットロニクス・ソリューション東北(株)から始まったローカル発信のビジネスで、同社社長の宇野孝、藤原勝利を中心とするチームワークで担当させていただきました。今後もジェットロニクス・ソリューション各社とジェットロニクスは一丸となって、ボウリング・ソリューションを全国で提供してまいります。

with AL (ウィズ・エーエル) について

with AL は、日立製作所の有するハード/ソフトからシステムまでの先端 IT 技術に、ジェットロニクスが従来培ってきた知識とノウハウを融合させ、さらにユーザーの声を反映させたボウリング・オートレーンシステムです。

従来のシステムでは、大型のテーブルに組み込んだ固定モニタでスコアの表示を行っていたのに対して、with AL では専用モバイル端末にスコアを自動集計・表示する機能を備えているのが最大の特徴です。これによって、これまで各レーンの入口部分に設置していた大型テーブルが不要になり、ボウリング場内のスペースを新たなコンセプトでデザインすることが可能になりました。

レーンごとに独立空間を演出するフレキシブルなピットを設置すれば、小人数でのプレーやグループのミニパーティー等にも最適なスペースとしてボウリング場を演出できるようになります。このモバイル端末を核に、全レーンのシステムが、ワイヤレス、かつ OS (基本ソフト) に左右されないオープン環境で稼動。システム全体の稼動状況がインターネットを通じて、ジェットロニクスに送信される仕組みであるため、障害時の復旧もリモート管理によってスピーディーに対応します。併せて、ワイヤレスであることから、システムの設置に要する時間も、従来のシステムと比べて大幅に短縮することができます。

(オープン)、(ワイヤレス)、(ネットワーク)、(スペース)の4つをキーワードとした with AL は、ボウリング業界をさらに飛躍させる新サービスシステムとして、続々と日本各地のボウリングセンターに実際に導入されています。

詳細：プレスリリース(2004年11月11日発表)

「with AL、モバイルオートスコアラ―発表！ 日立製作所と共同で新アミューズメントゾーンとしてさらに活性化」

お問い合わせ：ジェットロニクス株式会社 BS 事業部 ボウリング営業部

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-1-38 秀和芝公園三丁目ビル 電話：03-5403-1009(部門代表)